

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## 授業づくりに必要な3つのキーワード



### 1 共通性

- ・授業では、みんなに共通した指導が必要である。授業のルールを明確に示す、なるべく刺激を減らす、最初に授業の流れやねらいを提示する、みんなが参加できる導入を工夫する、子どもの集中時間を目安に授業を分割して行う、子どもが動ける具体的な指示を出す、多様な学習活動や形態を組み入れる、聞くと書く時間を区別するなど考えられる。
- ・小児科の名医といわれるある先生は、いつも白衣のポケットに手を入れながら子どもを診ていた。それを不思議に思った看護師が、「なぜいつもポケットに手を入れているの?」と尋ねると、「小さいお子さんに、冷たい手で触ると、それだけでビックリして不安になるからです」と答えた。まさに、どの子どもにも必要で、共通する配慮である。



「共通性」は、どの子どもも学びやすい授業づくりの前提となる。

### 2 多様性

- ・授業では、一人一人の子どもの実態や学びのスタイルに合わせた指導も必要である。座席の位置を工夫する、みんなが取り組み基本課題と早くできた子どもが取り組む発展課題を用意する、書くことに困り感がある子どもには、書く量を調整したり板書計画を手元に置いたりする、机間巡視で個々の理解度を把握する、その子どもに合った課題を与えるなどが考えられる。



- ・あるお寿司屋さんで、70歳ほどの年配の母親と娘が同じ寿司を頼んでいた。母親が「この寿司は食べやすいね」と言ったので、娘が何気なく、寿司を握っていた大将を見ると、何も言わずに母親のほうの寿司だけ、食べやすいように「隠し包丁」を入れていた。まさに、一人一人の実態に合わせた配慮であり、プロの仕事である。

「多様性」は、一人一人の子どもを大切にすることである。

### 3 関係性

- ・授業は生きものであり、子どもと教師、子ども同士の関係性によって成り立つ。この先生の言うことなら聞こう、この仲間となら安心して学習できると思える「信頼関係」が授業づくりに影響する。
- ・私は研修会でこんな質問をする。

Q「あなたが子どもの頃、好きなだった先生はどのようなことをしてくれましたか？」

A「よく話を聞いてくれた」「頑張りを認めてくれた」「期待する言葉をかけてくれた」

「授業が楽しかった!」などの答えが聞かれる。整理すると、子ども一人一人に合わせた「えこひいき」をしてくれた先生ではないか。

子どもはよい「関係性」が築かれた集団の中で認められてこそ、自己肯定感や自己有能感が高まり、生き生きと授業に参加できる。

